

## 卷頭言

今年の夏も暑い夏です。猛暑日が続いてます。皆さんお元気でお過ごしでしょうか。

さて、今回は昨年度の総会の折に講演された鍛治さんが、講演内容を纏めてくださっています。動く折り紙と言われるカライドサイクルの話題です。講演も、実際に紙で組み立ててみると実体験付きでした。数学的な裏付けがあって、こうしたもののが作られているのです。数学理論を、実物を前にして実感できるということに、今までにない新鮮さがありました。そして、講演を纏められる際には、文字起こしにAIを使われたそうです。AIはChatGPTの出現以来、瞬く間に生活の中に入り込んできた感じです。今後もますます影響力を増していきそうです。

AIなどに代表される科学技術の進歩には目覚ましいものがありますが、AI以外にも個人的に興味を持っているものに宇宙があります。一番近い宇宙は月といってよいでしょう。月に行くことは長い間人類の夢でしたが、それはアポロ11号によって1969年に成し遂げられました。とはいっても、月はまだまだ気軽に行けるところではありません。

そんな中で実は日本でも月を目指す計画が進められています。ispaceという、なんだかiPhoneみたいな名前の(iを付ければいいってもんじゃないだろう)民間企業が、月へ衛星を送り込むミッションに挑みました。日本ではJAXA(宇宙航空研究開発機構)というのがよく知られています。こちらは国の機関ですが、民間企業が取り組んでいるというところに興味をそそられます。ispace社が取り組んでいるミッションの名前はHAKUTO-R。衛星はSpaceX社のロケットFalcon 9 Block 5を使って2025年1月15日に打ち上げられました。そして6月6日に月面へ接近、着陸態勢に入ったというところで通信が途絶えてしまいました。おそらく月面に激突したのではと思われており、着陸は残念ながら失敗てしまいました。このことは一部で報道はされましたが、あまり話題にはならなかったようです。成功していれば、マスコミでもにぎやかに報道されたかもしれません。

実は今回のミッションは2度目で、2023年にも月を目指したのですが、やはり着陸に失敗しています。いまだ成功には至っていないのですが、ispace社は今後も月を目指してミッションを継続しています。夢を追い続ける姿は、ロマンがあっていいじゃないかと思いますが、一方で一山当てて大儲けしてやろう、という山師的野心もどこかにはあるのでしょうか。実際、ispace社の後ろには三井住友銀行がオフィシャルパートナーとしてついています。他にもコーポレートパートナーとして、日本航空株式会社(JAL)、シチズン時計、SMBC日興証券などの企業が名を連ねてあります。宇宙をこれからビジネスチャンスととらえているようですね。そのうち、月面に宇宙基地が建設されるかも知れません。

こうした科学技術の根底には数学があります。そのうち京大数学を出た人たちが、月を目指す、というような取り組みにかかるようになるかもしれません。数学が必要とされる場は多方面にわたっているので、いろいろな方面で皆さんの活躍が見られるのではないかと楽しみにしております。

2025年8月  
会長 重川一郎